

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1072700493
法人名	タクミ工業株式会社
事業所名	グループホーム ベルジ川場たやの家
所在地	群馬県利根郡川場村生品 1823-1 (電 話) 0278-52-3080

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7
訪問調査日	平成22年1月20日

【情報提供票より】(21年 12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.4	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円		その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300, 000 円) 無		有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	410 円	昼食	450 円	
	夕食	440 円	おやつ	円	
	または1日当たり		1, 300 円		

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数		9 名		4 名		女性 5 名	
要介護1		1 名		要介護2		3 名	
要介護3		1 名		要介護4		3 名	
要介護5		1 名		要支援2		0 名	
年齢	平均	83.4 歳		最低	67 歳		最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ほたか病院 ほたか医科歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者にとって身近な存在でありたいと家庭的な雰囲気を大事にしているホームである。フキトウのおやきや手打ちうどんなど食事のメニューに利用者の希望を気軽に取り入れたり、年に3回は家族を招待してバイキングも行い家族の交流に努めている。利用所の希望や意向を自筆で書いてもらって廊下に掲示し、実現に向け職員が工夫している。またお便りにも家族へ向けた自筆のコメントをのせ、家族との関わりを大切にしている。気軽に自宅へ出向いたり畑や植木の手入れで地元住民に協力してもらいながら関わりを重ねることで、地域の理解が広がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①1市町村との関係では、運営推進会議に保健師が参加することもあり、以前に比べ連携もスムーズになった。②介護計画は定期で6カ月ごとには見直しをしている。③食卓を利用者と一緒に囲むことは、特別食では実施している。④栄養摂取や水分確保については、すべての利用者について1日の状況を記録に残すようになった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各職員に配布し、意見を聞きながら管理者やチーフで検討しまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度開かれる運営推進会議には、家族や地元関係者に加え今年度から保健師も参加する機会が持てるようになり、お互いに情報交換できるようになった。外部評価の結果も議題にし、意見や希望などを出してもらい改善に向けて検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には面会の際や電話で生活の様子を知らせながら要望を聞くようにしている。また、月に1度は本人の自筆のコメントや要望をのせたお便りを発行している。家族同士が交流できるよう年に3回はバイキングを行い、懇親を深めながらホームに対する意見も出してもらえよう働きかけている。改善すべきことには早急に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の商店や理髪店を利用したり、老人会や保育園と一緒に芋堀に参加したり、地域の行事には積極的に出かけ交流するようにしている。また、ホームの畑や植木の手入れや指導を地元の人をお願いしている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時に合言葉にしていた指針に加え、「地域社会と共に歩む家」をはじめとする具体的な5か条の理念をホーム独自に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念をネームプレートなどに常に携帯し、日々意識するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接地域に民家はないが、地元の商店や理髪店を利用したり、老人会や保育園と一緒に芋堀をしたり、地域の祭りやもちつきなどに出かけ、積極的に交流するようにしている。ホームの敷地内の畑や植木の手入れは地元の人に指導してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、職員・家族全員に配布して共有するようにしている。管理者が出す改善方法についての方針を、職員で検討している。自己評価は業務の見直しの機会ととらえ、全職員が取り組み、出された意見をまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開かれる運営推進会議は、家族や地元関係者の他、今年度から毎回ではないが役場の保健師が参加するようになった。情報交換の中で出された意見は運営に生かしている。	○	行政との情報交換は保健師の参加で以前よりはスムーズになっており、毎回参加してもらえるよう積極的に依頼していただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて役場にも出かけているが、さらに担当課との関わりを増やしていきたいと考えている。	○	地域との関わりを浸透させているグループホームの取り組みを役場の担当者に理解してもらい、活動に協力が得られるよう今後も働きかけていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には面会時や電話で生活状況を報告している。また、月に1度はお便りを発行し、写真を添付したり利用者自筆のコメントを載せるようにして家族との絆を重視している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼びかけたり、年に3回のバイキング実施にはほとんどの家族が参加してくれるため家族同士の交流から意見を出してもらっている。改善点は早急に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意向を聞いたうえで、法人方針での異動はあるが、この1年は異動はない。異動があった時には、利用者にもその都度紹介や説明を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修センターが中心になって新人・中堅・管理者向けの研修を組んでいるため、それぞれ参加させている。マンネリ化を防ぐために法人内のグループで体験研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着グループホーム連絡協議会に参加して交流している。近隣のグループホームとレベルアップ研修で交流し情報交換も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には本人・家族と面接を行い、見学してもらいホールの雰囲気を理解してもらうようにしている。開始前には職員間でも情報を共有し合うようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに毎日の生活を過ごせるよう、昔の生活習慣を教えてもらったり生活の知恵を教えてもらいながら支えあっている関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎年1月にはそれぞれの希望を掲示し実現できるように支援している。日頃からコミュニケーションを大事にして思いや意向を把握するようにして、家族にも伝えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は包括的介護支援プログラムを利用し、職員・家族・本人の意見を出し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は状況の変化に応じて見直しをしているが、定期では6カ月ごとに見直しを行っている。また毎月状況を評価しながらモニタリングを行っている。	○	定期的見直しは期間を短縮し、3カ月ごとに行ってみてはどうか。モニタリングは、現在の計画が継続の必要があるかどうかを念頭に検討してみてはどうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日頃から利用者の意向を丁寧に聞き取り、実現に向け臨機応変に対応している。(自宅への送迎・家族との外出・医療機関受診の支援・地域行事への参加など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じてかかりつけ医を受診してもらうようにしている。2週間ごとに協力医療機関の往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての方針を定め、状況に応じて相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員研修でもプライバシーの確保等について取り上げ、注意を図るようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や希望に応じて散歩に出かけたり、お茶会を開いたり自由に生活できるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の大きな楽しみととらえ、希望のメニューを取り入れながら、配膳・下膳・下ごしらえ・洗い物・おやつ作り・うどん打ちなど職員と一緒にしてもらっている。食卓は検食者1名と一緒に囲んでいる。	○	利用者の希望を取り入れた特別食やおやつは職員も一緒に楽しんでおり、家庭的な雰囲気での食事を大切にしている。引き続き検食者以外の職員も一緒に食卓を囲めるよう検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりのんびりしながら季節感も取り入れた入浴支援がなされている。それぞれの体調も配慮し、希望を聞きながら毎日でも入浴ができる状態にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字や俳句。生け花等の趣味を生かした楽しみや畑での野菜作りや掃除など誰もが気晴らしや役割が持てるよう場面作りを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気軽に散歩や買い物、自宅への外出や外食に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午前中は入口に施錠しているが希望に応じていつでも外にいけるよう支援している。また午後2時から開錠しており、夏は扉も全開にしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回は夜間を想定して防災訓練を実施している。1回は消防署に協力してもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分は個人カルテに毎回記録で残し、職員が正確に把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームからは広いテラスにいつでも出られ、季節の移り変わりや日光浴がいつでも楽しめる。廊下には季節の催しものを楽しそうに過ごしている様子が写真で掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが安心して居室で過ごせるようテレビや家具、職員手作りの仏壇などを持ち込み、工夫している。		